



支援便り

令和5年11月発行 第4号
串木野特別支援学校 支援部

前回の支援便りで、困っている子供たちの環境調整や適切な支援が大切であるということをお知らせしました。今号ではその環境調整や適切な支援について、2学期の巡回相談事例から考えてみましょう。

【事例】 小学2年生男児。授業に集中できず、すぐに気が散って手遊びをしたり、途中席を立ち友達の邪魔をしたりしています。また、絶えず体のどこかを動かしており、教師が注意すると一時的には収まりますが、またすぐそわそわしてしまいます。教師の話も聞き逃したり、聞き間違えたりすることが多くあります。

1 その行動の原因(背景)を探りましょう。

- ・ 多動性、衝動性が強いのかな？
- ・ 注意力、集中力が短いのかな？
- ・ 指示が入りにくいのかな？
- ・ 指示をすぐ忘れてしまうのかな？
- ・ 勉強のつまずき？ など



2 手立てを考えてみましょう。

詳細な状況説明や実態等情報が少ないですが、先生方はどのような支援を考えますか。私は「環境調整」と「望ましい行動パターンの確立」の二つの視点から考えてみました。

○「環境調整」

環境には、物理的なものと人的なものがあります。ユニバーサルデザインの視点で考えてみましょう。

物理的な環境の整備 → 注意を集中しやすいように刺激を減らす。

- ・ 教室内、黒板周りの掲示物は最小限に。
- ・ 座席の位置は外の景色や廊下の音など気になる場所は避けて。
- ・ 机上の整理整頓を促すような声掛けを。

人的な環境の整備 → 教師の授業の進め方や関わり方を工夫して注意集中を促す。

- ・ 一斉指示の前に、肩に手を置く、そばに行くなど注意喚起して。
- ・ 指示は簡潔に、具体的に、予告して、一度に一つ。
- ・ 話し言葉は消えるので、視覚情報(実物・写真・絵・文字)も一緒に。
- ・ 動くこと、聞く・読む・書く・話し合うなど授業の構成を工夫して。
- ・ 「動くことの保障」をするため役割を。(プリント配り、手伝い)
- ・ 授業の題材や教材・教具に子供が興味をもちそうなものを取り入れて。

○「望ましい行動パターンの確立」

① 行動目標(約束)の設定

子供と相談しながら、ちょっと頑張れば達成可能な目標から設定し、スモールステップで取り組んでいく。今回の場合、「授業中席を立たない」という目標が決まったら、「席を立つのは3回まで」→「1回」→「0分までは座っている」→「△分まで」→「終わりまで」のように難易度を少しずつ上げていく。

② 注意・叱責(～しない。～してはダメ。)はNG。

目標や言葉掛けは具体的に、肯定的に。(～する。～しましょう。)

③ その場でたくさん褒める、認める。(成功体験→自己肯定感UP→自信・意欲)

☆褒め言葉5S/さすが・すごい・素晴らしい・すてき・それでいいよ

④ 評価(トークンシステム)

目標通りできたときにポイントがもらえ、たまったポイントでご褒美がもらえるシステム。ただし、もので引き付けるやり方ではなく、努力すればいいことがあるということを体験をとおして教える。たとえば、シールを集めると宿題免除カードがもらえる、好きな遊びが選べるなど。

今回、私は二つの視点で支援方法を考えてみましたが、一つでもできるところから取り組んでみるのが大事ではないでしょうか。まずは、チャレンジ！